

くなつたら破産だ、と。トムの弟テリーもまた、安全宣言を信じた側につきました。汚染の事実を認めるのは農夫の誇りを傷つけることだし、認めたら農業を続けていけません。だから、やむを得ない選択でもあつたのです。

### ■ガリバー旅行記の気分 ■

一方、六ヶ所では私が撮影していた期間、まだ再処理工場は稼動していなかつたので、汚染被害もなければ当然被害者も存在しない、そして核施設に対する反対運動もほとんど終息してしまつた状況でした。村人のほとんどが核燃を受け入れた、そんな村にカメラを持ち込んだのです。

最初はガリバー旅行記のような気分でした。誰にとっても自分の暮らしの中に大量の核廃棄物があることをよしとはしないでしよう。ところが六ヶ所ではそれが良いものであり、村にとつて必要だと

言われている。核燃を批判することが、暗黙のタブーとなつていて。いつたいどうしてそうなつたのか?新参者の私は、それを知りたいと思いました。

### ■まつさらになつて話を聞く ■

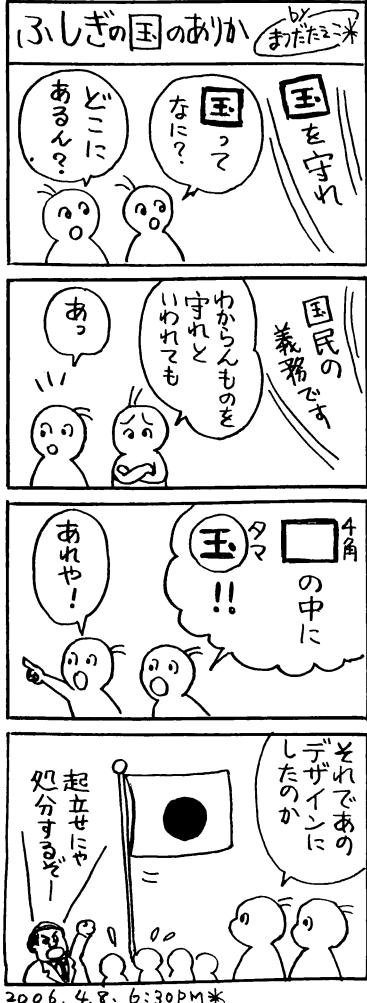
私自身は、劣化ウランを副産物として生み出す原子力産業を見直したい、という思いがあります。イラクの子どもたちが受けている苦難の原因がそこにあるからです。日本で原発の電気をふんだんに使つてている限り、この自分自身の加害性から逃れることはできないし、それは容認できない。そんな思いがあつても、私は六ヶ所で取材する時に、反対する人々も賛成する人からも同じように話を聞こうと決めました。予断を持つて作品を作らない、まつさらになつて話を聞こう、ということにしたのです。

だからといって村人が最初から取材を

受け入れてくれた訳ではありません。どうせ反対派の映画を作るんだろう、と思われていたからです。それでも何とか、核燃を支持する人々の本音を聞くことができるようになりました。そこに私は、巨大な権力と資本が行なつてきたことの内実を見たのです。それは本当に巧妙に仕組まれ、見えないように生活の中に埋め込まれています。

六ヶ所村だけでなく、日本に生きる私たち全員がこの仕組みに取り込まれ、加担しているのです。人口一万二千の村に六〇の関連企業と八〇の建設会社があり、この一〇年に二兆二千億円を越える金が再処理工場の建設に使われました。このお金の恩恵を受けていない人など、村では皆無に等しい。同質のお金は、マスメディアにもくまなく行き渡っています。原子力の負の部分を語るな、といいう暗黙のプレッシャーを与え、それが非常に有効にきいています。この映画を観れば、私たちが取り込まれた罠が見えてくるでしょう。

この三月から工場は動き始めました。ハンフォードと同じことが、風下で起き始めています。反対する農家を同じ農家が批判しているのです。私たちはこれららどんな選択をしていくのか、一緒に考えたいと思い、この映画を作りました。



〔付記〕この稿を書き終えた後、五月十四日の『ジャパン・タイムズ』紙に次のような投書が掲載された。以下、私の翻訳で紹介させて頂くことにした。

(チヨン・キヨンモ、シアレビム社代表)

### ピヨンヤン側のハートに迫る道

四月下旬、めぐみの母親早紀江の訴えに接したワシントンは激情につき動かされた。彼女は米議会人権委の前で、拉致された娘のことについて証言し、ブッシュ大統領とも会談した。北朝鮮の拉致問題がこれほど全地球的規模で取り上げられたのは初めてのことであり、米国の議員や一般国民に大きな衝撃を与えた。

しかしながら、むかし天皇ヒロヒトの軍隊は、中国、フィリピン、朝鮮その他の国から十数万の若い女性を拉致して性奴隸として虐待し、役に立たなくなるモノのように捨てたのである。近年になつて日本により拉致されたこれら若い女性たち——今は年をとり老婆となつているが——は、次々と日本に現われ、政府、司法当局、言論機関、そして一般世論に声を大にして訴えた。しかし彼女たちが受けたのは、度重なるはずかしめと屈辱であった。

横田夫人に尋ねたいが、日本が犯した拉致と、朝鮮が犯した拉致の間には、ど

うしてこれほどの違いがあるのだろうか。北朝鮮に拉致された被害者たちは、少なくとも人並みの生活を送り、結婚して子どもを産み、家庭を持つことが許され、人権については日本よりましな配慮を与えたのではないのか。

日本は横田夫人をワシントンに送り込み、新聞やテレビを総動員してPR活動をさせるだけの力を持っていたが、同様に誰かの娘でありながら日本人によって拉致され集団的暴行にさらされた上、最

### ■映画紹介■ 『六ヶ所村ラプソディ』を作つて

鎌仲 ひとみ



上映会の問い合わせ  
グループ現代 03-3341-2863

少限度の正当な補償さえ拒まれた数千、数万の乙女たちに、果してどれだけの配慮を示したのか？

この点に関する日本の公式姿勢は利己的の一語に尽き、正当化し難い。もしも横田夫人が、自分が経験した悲しみでの数多くの母親が感じたと同じ悲しみであつたと訴えたなら、歴史は変り得たかも知れない。北朝鮮の当局者も、少しは胸を打たれたのではないだろうか。

(東京、M・S・NASIR)

カの世界最初の再処理工場ハンフォードの風下で放射能汚染を受けた住民を取りました。が、今回、六ヶ所はまさに日本のハンフォードだと感じて、撮り始めたのです。どちらもプルトニウム製造工場だという点で共通していますし、風下に農地が広がっている点も同じです。ハンフォードのシーンでは、二人の兄弟が登場します。兄のトムは、核施設からの放射能汚染によって多くの風下住民が病んで死んでいったこと、今もそれが続いていることの責任を政府に問います。ところが政府は、大量の放射性物質を放出したことを見認めながら、健康に影響はないと言弁します。農民たちは、政府のコトバを信じてトムを批判します。騒ぎ立てたら自分たちの作物が売れなくなる、特に大のお得意さま、日本が買ってくれな